HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第1章 実証的研究に於ける時点の取扱い
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木榮太郎著作集６（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77283
Type	manuscript
File Information	X057_011.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

実證的研究に於ける時点の取扱い

伝承し得る資料が得られるならば実證的研究は何れの民族何れの時代に対しても進める事が出来よう。かくの如き資料が最も多く最も確実に得られるのは同一民族で生活して居る現在の民族についてである。故に研究は現在の民族について始めねばならぬ。

最も容易に最も深く最も正しく最も全般的に進める事が出来よう。

村落とか都市とかの如き極めて複雑な社会的統一体に於ける基本的構造を理解するに充分な資料がどれ丈多くても得られるのは現在と

（人生の細に相当）

云ふなら、外には到底望み得ないもの。過去のある時点に相当に多くの史料が得られる場合があつて、それは知りたいその九牛の一毛にも及ばないであらう。我には社会生活の全般、就中文化、政治、経済、法律、宗教、道徳、風俗、習慣等なほその組織を深く理解する事は出来ない。(我には理想はこゝにある。)一種類の社会現象について(それを望めば何程でも得られる。)すら充分な資料を得て居ない。まして過去の史実の半分も知り得ようとは思はない。(それで足りるのである。)

史実を基礎とする研究が、僧侶多いしのいみ
る事は当然でありよう。しかしそれは決して学、深め
社会のにおける基本的な領域にはあり得ない
とは当然にいい得ようと思う。社会を抜における基本
的な構造研究を究明する事が社会学の最も基
礎さんる事いまよか、かくのごとき構造研究の究
明に必要な資料は現在とみよは矢以外には到底
先ず以得られまいと信ずるがよかろうである。
社会生活における基本的な構造研究にはなく
してその部分的な断面に関する研究には史実

No.

を基礎とする研究は当然にあり得べきである。
けれどもこれらの研究が実際的な学の研究
の主流をなすものでは絶対にあり得ない。

No.

都市計画を我々が都市計画を知り得ない、
そのまこれ示して見よのは国民性の現れの都市計画はない
都市の概念を一般的の都市計画の上に
築くのは困難であります。
なぜ理由はこれにあります。
けれどそれ私等が現在の都市の状態の上に
概念を決定すべき次第はありあります。
けれども
我等の四つの都市計画には何れも他
民族他時代の都市であります。
私等が研究しなければならない項の内知りわる
その点については都市の基本的構成を
する点は
それ我々の
あるであろうか。それを
知るために
求めるのはいかに矢張りであります。

No.

都市
社会学その他民俗他時代の事柄
市に概念、研究の基礎
都市の
少くとも
船舶をおくるは如何かん考えます。
判定のう項目として考えてよいである。

No.

凡例

一、各章の終りに附記の項をかゝへてゐるところが多い。附記は本文に於いて論述しゐる理論の基礎となる主な事実に関して補足的な説明を施こしてゐる場合が多い。特に附記の項を設けるのは本文に於ける論述を簡明にする為である。

二、引用文の出所は本文及び限り本文中その場所で明かにしてゐる。

三、各章の末尾終りに附記の次に附してある

又は本文にかける理論に附随して

鈴木栄太郎誌

註論はその箇所にて論述した理論と関連多き外の論なその箇所とも比較する場合が多い。
を批判したいが為ではなく、自分の理論をさうする事によって、更に明白にする為である。
なお、本書の中には、叙述の順序が、そのまゝに私の論證の順序を現してはゐなゝ所もあるが論證の起点は現在に於ける事実である。

No.

社会心理学と現在

社会学は現在社会学の実を研究し
科として人間生活の基本的構造を究明す
る事を究極の目的としているのであるが、
特に現在社会における資料を取扱うのは、人間社
会生活の基本的構造を知るためには、人間社会
に於ける共存しているあらゆる分野に於ける
社会的事実を観察するが必要である。かく
のごとき総合的観察をするためには現
在以外にはない。現在においては如何な

の公的の社会的の実も多くの人々が、自然に伝
承し繰り返して行為するのが多いものです。かくの
如きは実は地方の外には多い。偶々残存して
居ると記録によって知ることあり一節々の社会的の実行
例して現象し得るのは多くの場合がそうでしょう
私の社会生活の全般について知りうるのはな
うぬ漁村の中のほんの一部部分、並に九年の
一生にしか過ぎない。
右の如き意味で私の社会的の研究の最初
の確実な出発点となった文献である前村の集計の

私権を擁護するものは、政府以外にはありません。のであるか、その政府について、次のような解釈が予想されるのであります。

社会的方法論において政府は、時の国家の発展において過去と未来との境界線をなすところの瞬間的な点でなくして、私は厚い厚みのある政府を用いて来たが、政府概念がこのような形に変わってあります。

ネーションの政府とは、次の如き主要な型が

変化していない。この期待を意味する。社
会生活の主要な型が変化しないことは社
会集団はほとんど期待できるか。それは取扱
お問屋の関係する範囲を思うとある
。例へば家族に関しての私有は、通常家族
夫婦家族に分行しつゝあり北越の始まった頃から
今でもある。我が新しい法律よ、一家の
制度がなくなったはずからこれはなくなれ
のは勿論ですが、比較的の化向はしっかり
う始まっていますとはまへんが、その始めの何時

No.

次で多かりは孔子教い。故に伊尹の伝
制が我は廃止されはかりと見るのは正い。
口家制については、主従の花の形勢変動が
政治の北朝心なりはいめてから今まで、あと。天
皇制が廃止され民主制が生れたはかりで
なく、政治